

アメリカ太平洋基層文化論 II：アメリカ合衆国における国家と社会

[31M220-1222A, 31D220-1222A]

文献課題の変更済シラバス

東京大学大学院総合文化研究科

2022年度 Aセメスター 金曜2限

教室：駒場8号館8-206教室（主に対面実施）

教員：平松彩子（総合文化研究科／CPAS）

オフィスアワー：予約制

I. 授業概要

1930年代から20世紀後半にかけてのアメリカ合衆国における国家形成の経緯と特徴に関して、近年刊行された研究書を複数講読する。経済不況や戦争などの外在的衝撃を受けたことを契機として、アメリカの統治機構が、社会や個人、市場のあり方をどのように規定しなおそうとしたのか、またその結果いかなる反動が生まれたのかを考察する。主に取り上げるのは、税制や社会福祉、地域開発をはじめとする経済的な政策や、これと連動した人種間関係の規制、軍備、あるいは南部地域における政治体制の移行についての文献である。アメリカにおける国家形成の過程は、権力分立制と国内地域の政治的な多様性により矛盾や内部対立を多く孕んでいたが、時が経つにつれ、これらの矛盾を解消すべきであるという政治的主張が次第に高まり、二大政党の支持基盤の構成に新たな変化を生み出す要因となった。

「国家」という概念がアメリカにおける政治学に1970年代末に（再）導入されてからこんにちに至るまで、アメリカの政治制度の多元性と可塑性が引き起こす問題に着目し、より長い期間の政治的変動を分析しようとする研究が生み出されてきた。本授業ではアメリカ政治発展論と呼ばれるそれらの主要な文献を講読し、研究の潮流を理解した上で建設的に批判できるようになることを目指す。

II. 授業計画

第1回 10月7日（金） はじめに

第2回 10月14日（金） 国家の概念とその変容(1)

第3回 10月21日（金） 国家の概念とその変容(2)

第4回 10月28日（金） ニューディール体制の矛盾(1)

第5回 11月4日（金） ニューディール体制の矛盾(2)

第6回 11月11日（金） ニューディール体制の矛盾(3)

第7回 11月25日（金） ニューディール体制の矛盾(4)

第8回 12月2日（金） ニューディール体制の矛盾(5)

- 第9回 12月9日（金）「偉大な社会計画」とその遺産(1):人種差別と社会福祉
第10回 12月16日（金）「偉大な社会計画」とその遺産(2):裁判所と労働組合
第11回 12月23日（金）曲がり角としての1970年代(1):南部地域の軍需産業と経済開発
第12回 23年1月6日（金）曲がり角としての1970年代(2):ワークフェアの登場
第13回 1月20日（金）おわりに

III. 授業各回の課題文献と内容

- 第1回 10月7日（金）はじめに（オンライン実施）
• シラバス配布、授業概要の説明、報告担当回の決定

- 第2回 10月14日（金）国家の概念とその変容(1)

- Orren, Karen, and Stephen Skowronek. *The Search for American Political Development.* (Cambridge University Press, 2004)

- 第3回 10月21日（金）国家の概念とその変容(2)

- Mann, Michael. "The Autonomous Power of the State: Its Origins, Mechanisms and Results." *European Journal of Sociology* 25, no. 2 (1984): 185-213.

- 第4回 10月28日（金）ニューディール体制の矛盾(1)

- Katznelson, Ira. *Fear Itself: The New Deal and the Origins of Our Time.* (Liveright, 2013). Introduction, Chapters 1 and 2 [pp.3-95]

- 第5回 11月4日（金）ニューディール体制の矛盾(2)

- Katznelson. *Fear Itself. Chapters 3 to 5 [pp. 96-194]*

- 第6回 11月11日（金）ニューディール体制の矛盾(3)

- Katznelson. *Fear Itself. Chapters 6 and 7 [pp.195-275]*

- 第7回 11月25日（金）ニューディール体制の矛盾(4)

- Katznelson. *Fear Itself. Chapters 8 to 10 [pp.276-402]*

- 第8回 12月2日（金）ニューディール体制の矛盾(5)

- Katznelson. *Fear Itself. Chapters 11 and 12, Epilogue [pp.403-486]*

- 第9回 12月9日（金）「偉大な社会計画」とその遺産(1):人種差別と社会福祉

- Quadagno, Jill. *The Color of Welfare: How Racism Undermined the War on Poverty*. (Oxford University Press, 1996)

第10回 12月16日（金） 「偉大な社会計画」とその遺産(2): 裁判所と労働組合

- Frymer, Paul. *Black and Blue: African Americans, the Labor Movement, and the Decline of the Democratic Party*. (Princeton University Press, 2008)

第11回 12月23日（金） 曲がり角としての1970年代(1): 南部地域の軍需産業と経済開発

- Schulman, Bruce J. *From Cotton Belt to Sunbelt: Federal Policy, Economic Development, and the Transformation of the South, 1938-1980*. (Duke University Press, 1994)

第12回 23年1月6日（金） 曲がり角としての1970年代(2): ワークフェアの登場

- Bertram, Eva. *The Welfare State: Public Assistance Politics from the New Deal to the New Democrats*. (University of Pennsylvania Press, 2015)

第13回 1月20日（金） おわりに

- 各自の期末課題ペーパーについて口頭報告

IV. 文献の購入について

下記の図書については、履修者が各自購入しておくこと。版はいずれでも良い。

- Katznelson, Ira. *Fear Itself: The New Deal and the Origins of Our Time*. (Liveright, 2013)

V. 成績評価方法

口頭報告（40%）、ゼミ内議論への参加と貢献度（20%）、最終課題レポート（40%）による。欠席が全授業回の3分の1を超える場合は単位を認められない。

1. 授業内口頭報告

課された文献について、内容の大まかな要約（研究課題の設定、実証の手続き、依拠している資料群、その他）をした上で、議論、コメント、質問を提示する。A41枚以内の配布レジュメを準備のこと。

2. 最終課題レポート

アメリカ合衆国の国家の形態や特徴について、本授業の中で取り上げた複数の文献（ただし自身が口頭報告を担当しなかったもの）に基づいて論じなさい。レポートの文字数は、日本語で八千字程度、英語の場合は4,000 words程度。

VI. 課題文献以外の参考書

アメリカ政治を初めて学ぶ履修者には、自習用に下記の参考書を推奨する。

- 久保文明、砂田一郎、松岡泰、森脇俊雅 著『アメリカ政治 第3版』（有斐閣アルマ、2017年）
- 岡山裕、西山隆行 編『アメリカの政治』（弘文堂、2019年）